



2018年7月10日発行

有限会社 大宮工機

<http://www.ohmiyakouki.com>

取組期間：2017年3月～2018年2月

経営理念

“私達は真心を大切にし、人々の豊かな暮らしと未来の地球環境に貢献します。”

経営方針

1. お客様の満足を第一に考え、全社員が一丸となって行動します。
1. 安全を最優先に活動し、社員および関係者のしあわせを追求します。
1. 企業活動を通して互いに学びあい、成長・発展します。

環境方針

当社の経営理念および経営方針に基づき、持続可能な循環型社会の構築に貢献できる企業でありたいと願い、その実現のために努力します。

- ① お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。
- ② 濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
- ③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
- ④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
- ⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
- ⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- ⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

2006年12月1日制定

2014年12月2日改訂

2016年11月7日改訂

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城靖一

【1】 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 大宮工機
代表取締役 宮城靖一

2) 所在地等

本社：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 631 番地
電話：098-889-6166 FAX：098-888-3424
ホームページアドレス：<http://www.ohmiyakouki.com>
宮平 A ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 492-8
宮平 B ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 791-3
友寄ヤード：沖縄県島尻郡八重瀬町字友寄 109-11
山川ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字山川 286 番地 18
駐車場ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平当間原 651 番地 1

3) 事業の内容

- ・ 建設機械のレンタル・販売・修理
- ・ 赤土対策・濁水処理事業
- ・ レンタカー事業

4) 事業年度

3月1日から翌年の2月末日まで

5) 事業の規模

表1. 事業の規模

活動規模	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
		2013.3～ 2014.2	2014.3～ 2015.2	2015.3～ 2016.2	2016.3～ 2017.2	2017.3～ 2018.2
売上高	百万円	354	376	368	384	386
社員数	人	29	29	28	31	35

※ 社員数は年度末時点での人数とする。

6) 対象範囲

全組織、全活動

【2】 主要な環境活動計画の内容と取組結果

下記①～②より、目標値を設定した。

- ① 各項目とも売上高（百万円）当たりの量で目標値を設定する。
- ② 過去3年間の実績値より、それぞれの項目で最も低い値を基準値として定め、その値より1%ずつ下回ることを目標とする。

※購入電力による温室効果ガス排出量は排出係数が毎年変わるため目標値は設定しない。

表1に過去3年分の実績値と'17年度～'19年度の目標値を示す。

表2. 過去3年間の実績値と目標値

項 目		単位	'14年度	'15年度	'16年度	基準値	'17年度 目標値 (基準値 -1%)	'18年度 目標値 (基準値 -2%)	'19年度 目標値 (基準値 -3%)
			売上高	百万円	376		368	384	
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	689	710	722	689	682	675	669
	化石燃料	MJ/百万円	9,714	9,293	8,461	8,461	8,376	8,293	8,210
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.739	0.701	0.695	0.695	0.688	0.681	0.674
水資源投入量	総排水量	m ³ /百万円	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	2.2	2.1
温室効果ガス排出量	購入電力 (排出係数)	kg-CO ₂ /百万円	57.2 (0.816)	57.9 (0.802)	58.7 (0.799)	57.2			
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	661	632	576	576	570	565	559
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	2.9	4.1	4.0	2.9	2.9	2.8	2.8
	一般廃棄物 (焼却発電)	kg/百万円	2.5	2.9	2.8	2.5	2.5	2.5	2.4
	産業廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	151	70	99	70	69	69	68
	産業廃棄物 (単焼却)	kg/百万円	42	37	42	37	37	36	36

表3に目標値と結果及び評価について示す。

表3. 目標値と結果及び評価

項目		単位	目標値	'17年度 結果	結果 (±%)	評価
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	682	783	14.8	×
	化石燃料	MJ/百万円	8,376	7,614	△ 9.1	○
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.688	0.772	12.2	×
水資源投入量	総排水量	m/百万円	2.2	2.4	8.8	×
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円				
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	570	518	△ 9.1	○
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(再生利用)	kg/百万円	2.9	5.1	77.9	×
	一般廃棄物(焼却発電)	kg/百万円	2.5	2.6	4.2	×
	産業廃棄物(再生利用)	kg/百万円	69.3	76.0	9.6	×
	産業廃棄物(単純焼却)	kg/百万円	36.6	47.9	30.8	×

【3】主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

環境方針①

方針	2017年度の環境活動計画	2017年度の実績結果と評価
お客様へ、できるだけ環境にかかる負荷が少ない商品を提供するように努めます。	(1)発電機(出力15~60kVA)の内、極超低騒音型が占める割合を100%めざす。	今年度は極超低騒音型3台を更新したことにより、全発電機に占める割合100%を達成することができた。インバーター発電機の増機はなかったが、今後は古い発電機と入替をするなどして増やしていきたい。また、消費電力が小さい(50W)LEDライトは107台増やすことができた。ハウスの照明は、入替できなかったため、次年度に再検討する。今後も環境にかかる負荷が少ない商品を導入していきたい。
	(2)インバーター発電機やLEDライト等を、古い発電機やライトと入れ替えて増機したい。	
	(3)休憩ハウス、友寄ヤードのハウスの照明をLEDライトへの入替を検討する。	

環境方針②

方針	2017年度の環境活動計画	2017年度の実績結果と評価
濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。	(1)2016年度の濁水処理設備保有台数は35台で稼働率42%、流出防止土砂量は252tであった。2017年度は稼働率45%、土砂量270tをめざす。 (2)より高度な処理(透明度をあげる)を行う装置を開発し、それを現状の設備に付加していく。 (3)情報発信と環境配慮型機械の普及に努める。	濁水処理設備の稼働率は42%、土砂量は274tであった。 より高度な処理を行う装置を開発し、濁水処理設備500型1台と100V1台に設置した。 情報発信は濁水処理設備を納品した際にその都度写真を撮り、自社のHPに掲載している。

環境方針③

方 針	2017 年度の環境活動計画	2017 年度の取組結果と評価
沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組めます。	<p>担当 城間</p> <p>(1)2009 年 1 月から「海の種」の協力により、養殖サンゴの苗を海へ移植放流する活動を行っている。濁水処理設備を 1 台納入する毎にサンゴの苗を 1 本移植放流し、設備を使用して頂いたお客様に、移植したサンゴの写真を添えて「海からの感謝状」を届ける。</p> <p>2016 年度は 50 本、これまでに 383 本を移植放流した。2017 年度は 50 本を目標にする。</p>	<p>2017 年度は 50 本を目標にしたが 35 本であった。これからは濁水処理設備のみならず環境負荷低減型商品等を納品した際にも、サンゴの苗移植放流することを検討する。</p>

環境方針④

方 針	2017 年度の環境活動計画	2017 年度の取組結果と評価
<p>オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。</p>	<p>担当 知念 脩</p> <p>(1)電力</p> <p>①事務所の使用しない電気器具のスイッチをこまめに切る。</p> <p>②昼休み時間は事務所の電灯を消灯する。</p> <p>③電気器具のスイッチの近くに「節電」等を掲示し、社員の意識向上を図る。</p> <p>④事務所および休憩室の冷房の温度を 28℃以上、暖房の温度を 23 度以下に設定する。また、夏場は休憩室を使用する前に換気をして、熱を逃がしておく。</p> <p>また、休憩室の冷房器具を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。</p> <p>⑤事務所のエアコン、プリンタ等を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。</p> <p>⑥パソコンを使用していないときは電源を落とすなど、使用電力の削減に努める。</p> <p>⑦休憩室に LED 照明の導入を検討する。</p> <p>⑧太陽光発電等自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。</p> <p>⑨必要に応じて、自動点灯式照明器具を導入する。</p> <p>⑩夏季は事務所入口には遮光ネットを設置し、地表温度を下げる取組をする。</p> <p>⑪エアコンの清掃をこまめにする。</p>	<p>全体の使用量が昨年度より、2,534kWh(9%)増加した。事務所の休憩所としてハウスを設置し、エアコンの台数が 2 台増えたことが原因と考えられる。</p> <p>事務所のプリンタを最新の物へ更新した。</p> <p>エアコンの清掃を 3、6、9、12 月の合計 4 回行った。</p> <p>今後も使用していない電気器具のスイッチをこまめに切るなど、さらに工夫を重ねて取り組みたい。</p>
	<p>担当 濱里</p> <p>(2)水資源</p> <p>①節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどで、無駄を省く。</p> <p>②水漏れをふせぐ。</p> <p>③社員一人一人が節水を心がけるようにする。</p>	

	<p>(3)紙資源</p> <p>①ファックスの受信・送信、保存文書などの電子化により、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>②コピー用紙、名刺、トイレトーパーなどは再生紙を使用する。</p> <p>③社内会議ではプロジェクターを使用する等して、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。</p> <p>⑤社内で使用する資料等は、できるだけ両面印刷をする。</p>	<p>昨年度より投入量は 31.2 kg (11.7%) 増加している。昨年度と比べてコピー用紙、伝票の使用量が増加した。コピー用紙は、昨年度購入していない A3、B5 用紙を購入したためである。伝票については、原因がよくわからないが返納書を印刷する際に、少しの変更があった場合でも再印刷を行っていることも一因と考えられる。今後も、文書管理システム等の活用により、更なるペーパーレス化で紙資源投入量の削減を図りたい。</p>
	<p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <p>① 一般廃棄物の分別を徹底する。(燃やすゴミ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン等)その内、有価物(新聞、OA 用紙、段ボール、雑誌)は、指定障害福祉サービス事業所ワークプラザ南風へ提供する。</p> <p>②乾電池は、できるだけ充電式乾電池を使用する。</p> <p>③マイボトル・マイ箸などを使用して、ゴミを出さないようにする。</p> <p>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。 (再利用したのもも再生紙へ出す)</p> <p>⑤事務所で使用する消耗品は、詰め替え可能なものを使用するように努める。</p>	<p>焼却発電は、昨年度より 83kg (7.7%) 減少した。また、再利用が増加したのは、夏場にお客様に缶、ペットボトルの飲み物を提供したことが原因と考えられる。有価物が増加したのは、昨年度は計測ミスがあったが、今年度は正確に計測を行ったため考えられる。今後も分別の徹底と計測を正確に行い、ゴミ減量化に取り組むたい。</p>
	<p>(5)グリーン購入</p> <p>①事務所内の備品は、グリーン購入チェックリストを作成し、環境に配慮したものとするように努める。</p> <p>②チェックリストを定期的に見直す(3月・9月)</p>	<p>社内で使用する紙は再生紙、事務用品は詰め替え用を利用するなど、品質や価格だけでなく環境への影響ができるだけ小さい製品を選び、グリーン購入に取り組んでいる。</p>

環境方針⑤

方 針	2017 年度の環境活動計画	2017 年度の取組結果の評価
<p>使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。</p>	<p>(1)電力</p> <p>①高圧洗浄機の適切な使用を心掛ける。</p> <p>②作業場の使用していない電気器具のスイッチをこまめに切る。</p> <p>③必要に応じて、自動点灯式の照明器具を導入する</p> <p>④使用しない電気器具は撤去する。</p> <p>⑤作業場の使用しない電気器具は、コンセントを抜くようにする。</p>	<p>昨年度より9%増加し、目標を達成できなかった。宮平 A ヤードで夏場に、熱中症対策としてエアコンをつけたままにしたことが原因と考えられる。今後はエアコンを適切に使用することを検討する。</p>

<p>また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。</p>	<p>担当 比嘉</p>	<p>(2)燃料</p> <p>①車両および建設機械には、適切な燃料を使用する。</p> <p>②車両および建設機械の不必要なアイドリング、空ふかしの禁止。</p> <p>③安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避け、適切な車間距離を保つ。</p> <p>④配送車両の過積載をしない。</p> <p>⑤車両の日常点検(オイル・クーラント・タイヤの空気圧)を行う。</p> <p>⑥パソコン等で地図を確認して、適切な配送ルートをとる。</p> <p>⑦燃費効率が悪い車両の入れ替えを行う。</p> <p>⑧エコドライブ講習会を年1回以上実施する。</p>	<p>お客様の燃料使用量が減少した為、目標は達成できたが、自社のガソリン使用量は増加している。これは、レンタル車両2台を配送車両にしたことが原因と考えられる。また、平均燃費が0.3km/ℓ向上したことは、燃費効率の悪い車両を新車に入れ替え、さらに新車を1台増やしたためと考えられる。</p> <p>今年度は10月18日のエコドライブ講習会に5人が参加した。</p>
	<p>担当 濱里</p>	<p>(3)水資源</p> <p>①できるだけ雨水タンクに貯水した水を使用する。</p> <p>②機械等の洗浄水は、濁水処理設備で処理し再利用する。</p> <p>③友寄ヤードに雨水タンクの新設を検討する。</p> <p>④仮設トイレなどの洗浄に高圧洗浄機を使用することによって、水の使用を少なくする。</p> <p>⑤雨水タンクに流水計の設置を検討する。</p>	<p>昨年度と比べて74㎡(8.2%)増加し、目標を達成できなかった。その主な要因として、事務所で発生した蛇口の閉め忘れが考えられる。今後は水栓方向ソケット等を使用し、事務所、各作業ヤードで水の閉め忘れが発生しないように努める。</p>
	<p>担当 新里</p>	<p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <p>①分別を徹底し、有価物(鉄くず、廃油、バッテリー等)を増やすように心がける。</p> <p>②バックホー等に付着する泥を、できるだけ現場で落とすなどして、自社に持ち込まない。</p>	<p>昨年度と比べて単純焼却と金属は増加し、廃油と残土は減少した。これは、友寄ヤードから山川ヤードへ資材を移動した際に、整理整頓による廃棄物の発生が多かったことが原因と考えられる。今後も「機械・設備の点検」を適切に行い「資源の再利用」、「廃棄物の分別」などを徹底し、廃棄物削減に取り組みたい。</p>
	<p>担当 新里</p>	<p>(5)グリーン購入</p> <p>① 車両および機械等を購入する際は、環境への負荷が少ないものを選ぶ。また、グリーン購入製品リストを作成し、環境負荷低減型商品の導入を進めていく。</p> <p>②環境負荷チェックリストを作成して管理する。</p>	<p>昨年度は発電機を、より環境負荷が少ない極超低騒音型へ3台更新した。また、国土交通省排出ガス対策型建設機械3次基準値をクリアした0.1バックホー2台、0.2バックホー1台を導入した。今後も環境に配慮した製品を選定し、グリーン購入を進めていきたい。</p>

環境方針⑥

方針		2017年度の環境活動計画	2017年度の取組結果と評価
化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。	担当 上江洲	(1)関係法令や規則を遵守するため、管理方法や取扱い基準をまとめ周知する。	薬品保管庫内に「薬剤数量管理表」及び「薬剤の取扱い基準」を掲示し、薬剤の数量管理や取扱いを適切に行っている。
		(2)当社で取り扱う化学薬品の特徴や取扱いについて、社内学習会を行う。(年1回)	今年度は行っていません。

環境方針⑦

方針		2017年度の環境活動計画	2017年度の取組結果と評価
持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。	担当 上江洲	(1)環境問題について社内学習会を行う。(年2回)	4月25日に「エコ活動について、普段の生活の中でできることについて」勉強会を開催し、12月12日に「地球温暖化が環境に及ぼす影響、私たちが取組むべきこと」について勉強会を行った。
		(2)お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して、環境情報を提供する。	10月22日に琉球放送の「ジョブ魂TV」で当社の取組みが紹介された。また、FM 沖縄の「人間大好きリレージョッキー」にも出演(隔週水曜日 10時30分～10時40分)している。
		(3)環境フェア等へ出展する。	10月27日～29日に「同友会・輝く見本市」に出展予定であったが、台風接近のため開催中止となった。

環境方針⑧

方針		2017年度の環境活動計画	2017年度の取組結果と評価
環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。	担当 上江洲	(1)環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を毎年3月と9月に確認する。	3月25日と9月29日に確認を行った。環境関連法規は全て遵守されている。
		(2)環境関連法規についての社内学習会を行う。(年1回)	10月17日に水質汚濁防止法、赤土対策防止条例について勉強会を行った。

環境方針⑨

方針		2017年度の環境活動計画	2017年度の取組結果と評価
全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。	担当 上江洲	<p>(1)環境保全活動について、責任と権限を明確にした実施体制を構築する。また、定期的に社員教育を行ない、社員のレベルアップを図る。</p> <p>①6ヶ月に一度、全社ミーティングでエコアクション21の取り組み状況を確認し、改善点等について検討する。(年2回)</p> <p>②環境委員会を定期的に関き(毎月1回)、環境委員のレベルアップを図る。</p> <p>③エコドライブ講習会など外部講習会に参加する。</p>	<p>エコアクション21の取組を始めた2006年度から、責任と権限を明確にした実施体制を構築し、環境保全活動をすすめてきた。</p> <p>①2018年2月13日に活動報告と説明を行った。</p> <p>②2017年度は環境委員会を12回開いた。</p> <p>③10月18日のエコドライブ講習に5人が参加した。次年度も計画を立てて取組みたい。</p>

【4】12年間の環境活動の取組結果

図1. 過去12年間の総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量（売上高百万円当たり）

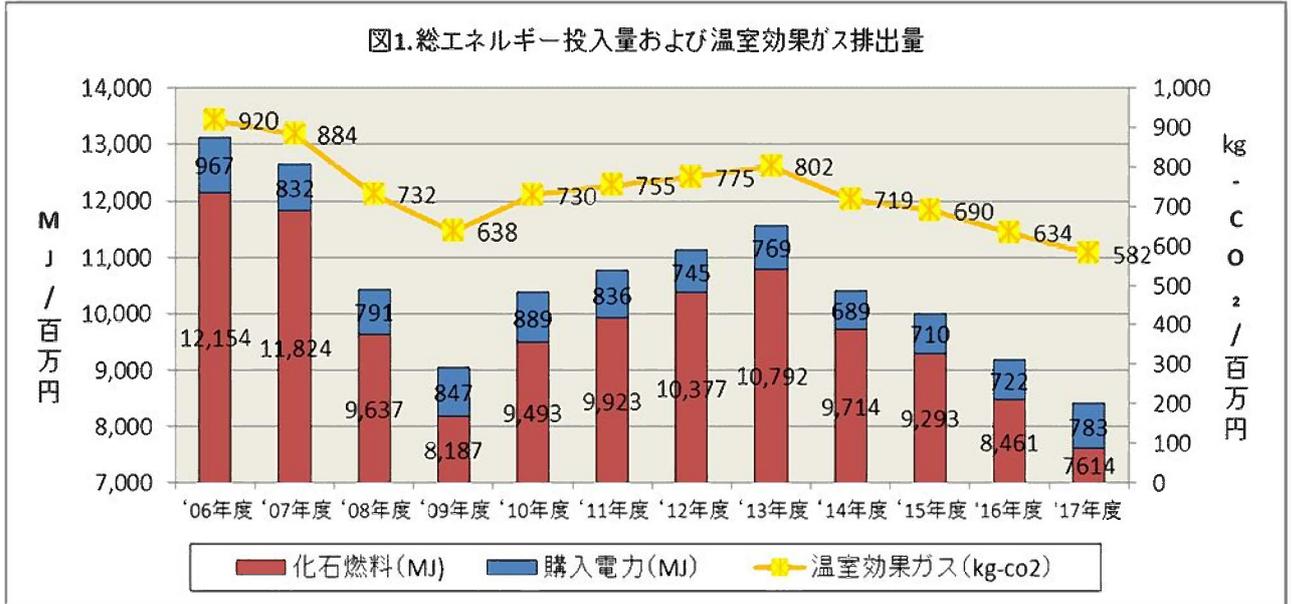


図1より、温室効果ガス排出量は、年度によりバラつきはあるが、2013年度以降は年々減少している。また、2017年度は化石燃料の使用量を減らすことによってこれまでの最低値を出すことができた。取組を始めた2006年度の排出を12年間続けた場合と比較して、この12年間で705,332Kg-CO₂の排出を抑制することができた。

図2. 過去11年間の一般廃棄物排出量(売上高百万円当たり)

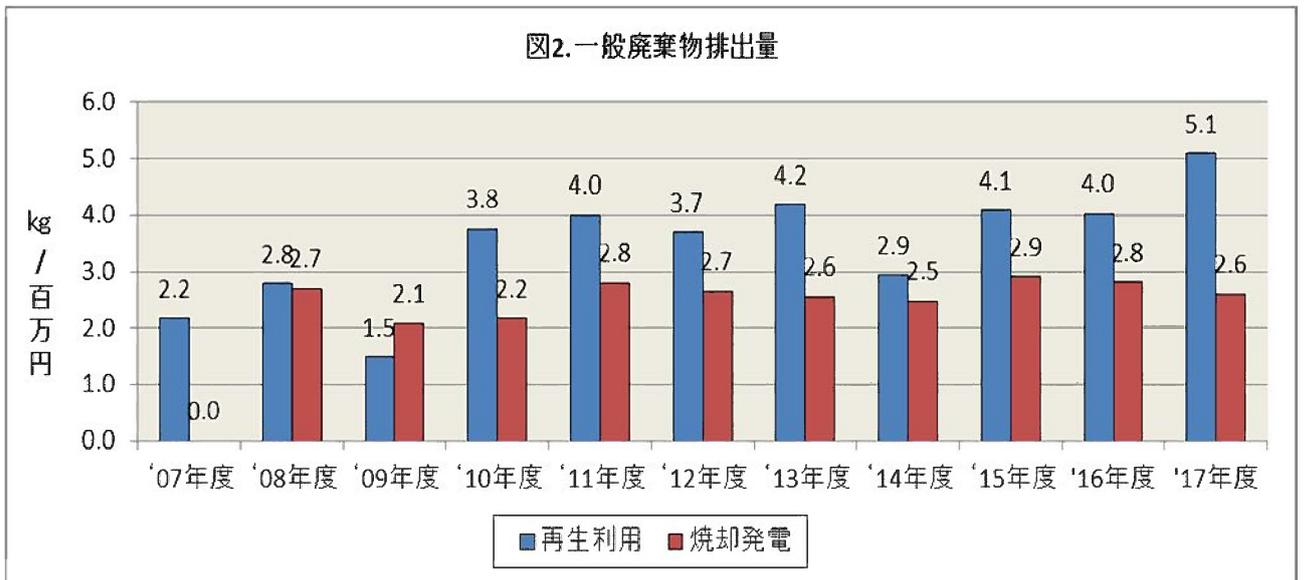


図2より、2017年度は再生利用が増加した。焼却発電は2011年度以降排出量がある程度安定している。それは分別の徹底が進んだためと思われるが、より向上させるためには、もう一歩進んだ取り組みが必要と思われる。

図 3.過去 12 年間の産業廃棄物排出量（売上高百万円当たり）

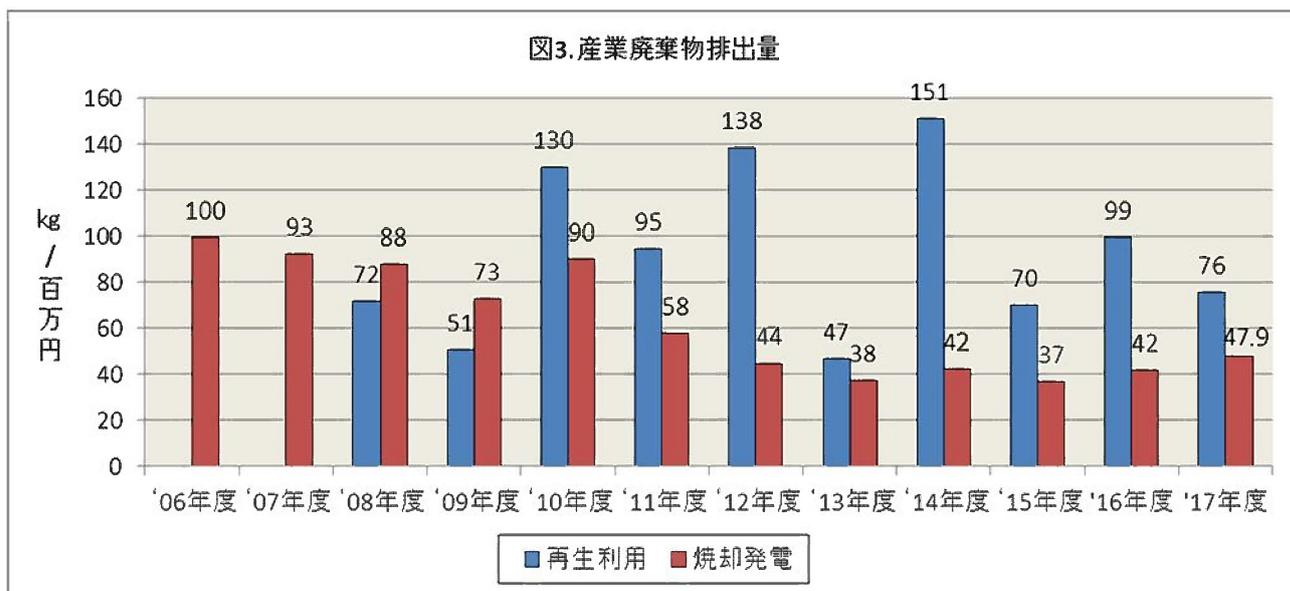


図 3 より、単純焼却は低い値で安定してきているが、再生利用は年度によりバラつきが見られる。

単純焼却が低値で安定していることから、分別の徹底が進み、リサイクル率が向上してきていると考えられる。

図 4.過去 12 年間の紙資源・水資源投入量（売上高百万円当たり）

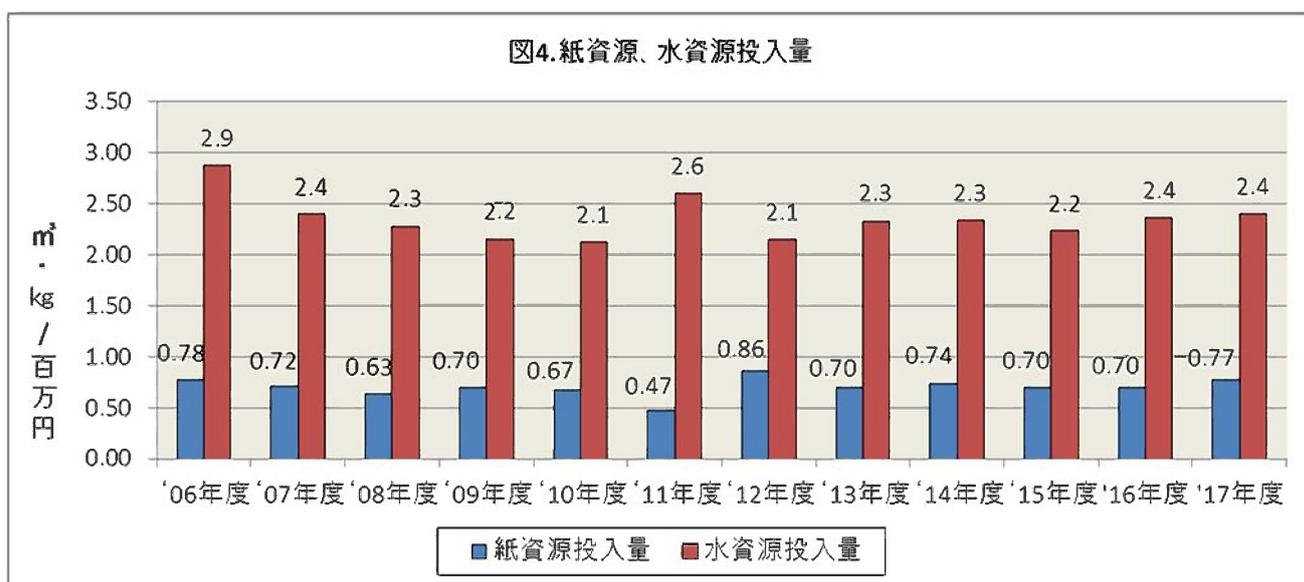


図 4 より、紙資源・水資源とも、あまり大きな変動はみられない。

表 5 に養殖サンゴの苗の移植放流数を示す。

表 5.養殖サンゴの苗の移植放流数

申し込み年月		本 数	移植年月
2009 年度合計		17 本	
2010 年度合計		57 本	
2011 年度合計		62 本	社員分 27 本含む
2012 年度合計		28 本	
2013 年度合計		38 本	
2014 年度合計		84 本	
2015 年度	2015 年 5 月	7 本	2015 年 8 月
	2015 年 7 月	6 本	2015 年 10 月
	2015 年 9 月	12 本	2016 年 8 月
	2015 年 11 月	4 本	2016 年 7 月
	2015 年 12 月	6 本	2016 年 7 月
	2016 年 1 月	12 本	2016 年 7 月
2015 年度合計		47 本	
2016 年度	2016 年 4 月	11 本	2016 年 7 月
	2016 年 7 月	12 本	2016 年 12 月
	2016 年 10 月	14 本	2016 年 12 月
	2017 年 1 月	7 本	2017 年 8 月
	2017 年 2 月	6 本	2017 年 8 月
2016 年度合計		50 本	
2017 年度	2017 年 5 月	11 本	2018 年 1 月
	2017 年 8 月	10 本	2018 年 5 月
	2017 年 11 月	10 本	2018 年 6 月
	2018 年 1 月	4 本	
2017 年度合計		35 本	
合 計		418 本	



2009 年度から「海の種」様の協力を得て養殖サンゴの苗の移植放流活動を行っています。移植放流後、サンゴ移植完了報告書『海からの感謝状』がお客様に郵送されます。9 年間で 418 本の移植放流を行った。

【5】次年度の主な活動計画

環境方針① お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。
・極超低騒音型・インバーター式発電機とLED照明器具の導入を更にすすめます。
環境方針② 濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
・お客様のニーズに対応した濁水処理設備や計測設備の開発をすすめます。
環境方針③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
・引き続き、濁水処理設備を1台納入するごとに、養殖サンゴの苗1本を移植放流する活動に取り組みます。
環境方針④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力・・・電気器具のスイッチをこまめに切り工夫を重ねて節電に取り組みます。 エアコンのメンテナンスを行います。
(2) 水資源・・・節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省きます。 事務所および作業場等の水道使用量を計測するため、水道メーターを取り付けます。
(3) 紙資源・・・文書管理システム等の活用により、更なるペーパーレス化で削減を図ります。
(4) 一般廃棄物・・・分別を徹底し、計測の精度を上げる取組をします。
(5) グリーン購入・・・チェックリストを作成し、環境に配慮した商品の購入に努めます。
環境方針⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力・・・高圧洗浄機等の適切な使用により、節電に取り組みます。
(2) 燃料・・・安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避けます。 エコドライブ講習会に、未受講の社員を優先的に参加させます。
(3) 水資源・・・雨水や処理水の利用を徹底します。
(4) 廃棄物排出量の削減・・・分別を徹底し、資源の再利用に努めます。
環境方針⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
・化学物質の適正な管理を徹底します。 ・化学物質の特徴や取扱いについて社内学習会を行います。(年1回以上)
環境方針⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
・環境問題について社内学習会を行います。(年1回) ・お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布します。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して環境情報を提供します。 ・中小企業家同友会の「見本市」に出展します。
環境方針⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
・環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を3月と9月に確認します。 ・環境関連法規について社内学習会を行います。(年2回以上)
環境方針⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。
・全社員でエコアクション21の取組状況を確認し、改善点等について検討します。(年2回) ・環境委員会を定期的に関き、環境委員のレベルアップを図ります。(月1回以上) ・エコドライブ講習会などの外部講習会に参加します。

【6】環境関連法規等への違反、提訴等の有無

環境関連法規への違反、提訴等は 1987 年 5 月設立以来、1 件もありません。

【7】代表者による全体評価と見直し

今年は例年より早く、簡素化されてとても見やすいレポートになっています。

忙しい仕事の中、日々の取り組みと関係者の努力に感謝いたします。

資源投入量の削減や廃棄物等の排出量削減については、目標を達成できた項目が 2 項目だけなのは結果として残念ではありますが、人員の増加による自然増やお客様にペットボトルの飲み物を提供するなど、顧客サービスの向上によるものは悲観することは無く、今後は工夫を凝らし、より良いサービスの向上に繋げてほしいと思います。

しかし、水道の出しっぱなしなどは、徹底した取り組みをする必要があります。

削減することが目的ではなく、環境に対する意識を高め、より良い職場環境を作り、より良いサービスを提供することが目的なので、1 人 1 人が自らの責任と義務感を持って、これからも廃棄物の分別や資源投入の削減を徹底して取り組んでいき、全員の環境に対する意識を高めていただきたいと思います。

養殖サンゴの苗の移植については、沖縄に生まれ、沖縄で活動するものの使命として、1 つでも多くの移植を進めていきたいと思います。

電気自動車などの普及が飛躍的に伸びていくことが予想されますので、CO2 削減にむけてエコカーへの切り替えも検討したいと思います。

1 人 1 人が工夫を凝らし、自分ができることを徹底して行えるよう、講習などを通して意識を高め、確実に実行していきたいと思います。

西日本豪雨災害で被災した地域の 1 日も早い復興を願うとともに、災害の起こらない社会の実現を夢見て、環境活動に取り組んでいきます。